



東海大学家族看護研究会



4月の事例：救命救急センターの家族支援

ERに腹痛で運ばれたAさん（50歳代男性）だったが、症状は落ち着き、経過を見ることになった。しかし、その夜Aさんはトイレで急変してしまう。あわただしく人工呼吸器等の処置がなされる中で、妻は、「さっきまで話せたのに…」「私の家族はね…」と、次々とまったく脈絡のないことを話し始めた。

騒然とした中で「家族支援を」と看護師は対応するも、あまりにとりとめのない妻の様子に、どうしたらよいのかとまどってしまった。

その時の「その一言」の声かけを練習します。

●開催日時●

2013年4月27日（土）
13:00～16:00

●場所●

東海大学伊勢原キャンパス
3号館1階 会議室

●アクセス●

小田急小田原線「伊勢原駅」下車
徒歩20分バス10分（東海大学病院下車）

●問合せ先●

0463-93-1121（代表） 担当：井上

●研究会ホームページ●

<http://kazokuns.ihs.u-tokai.ac.jp>
メールアドレス：kazoku@tokai-u.jp

救急センターでの家族支援の基礎ケース
「渡辺式家族アセスメント/支援モデル」を使って分析・解説します